極秘

明治四十三年九月廿五日 閣議決定

今回帝國ノ対清政策確立セルニ付テハ先ツ満洲ニ関スル対清諸問題ノ解決ヲ計リ以テ其中ノ最重要ナルモノニ即チ間島問題、法庫門鐵道、大石橋営口鐵道ノ撤去、新奉鐵道ノ延長、撫順及煙墓炭坑及安奉線其他鐵道沿線撫山ノ六案件ヲ一括シテ清国政府

2

REEL No. 1-0002

0067

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ト協商ヲ遂ケ講ルヘキモノハ之ヲ講リ我
主張ヲ貫徹スヘキモノハ飽クマテ之ヲ貫
徹シ大体左ノ方針ニ依リ成ルヘク一
併ニ是等諸問題ノ解決ヲ計ラム
ト欲

間嶋問題

間嶋問題ハ清韓両国多年ノ懸
案ナル為本件ニ関シ韓国ノ主
張ハ其根據甚タ薄弱ニシテ康熙
定界碑ニ基キ清朝交渉ノ歴史ト清

REEL No. 1-0002
0068
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

国カ帰国ニ先シテ川改ヲ該地方ニ施シタルノ事実ニ徴スルニ豆満江ハ両国ノ国境ヲナスモノタルハ疑ヲ容ルヽノ餘地ナク今日ニ於テ尚問題トナルヘキハ第二豆満江原流（石土水石乙水）ノ何レカ同江上流地方ノ境界ヲナスヤノ一点ニ止マルモノト認メラル然ルニ本問題ニ対スル清国ノ態度ハ極メテ強ク其地方官憲ハ終始沿島ニ於ケル清国領土権ヲ主張シテ急ルナリ昨年来日清両国地方官憲間ノ軋轢漸次甚シキヲ加ヘ最近ニ至リテハ沿岸、防穀、国旗巡査殴打、今迄所侵入等ノ案件續出シテ止マル所ヲ知ラス永ク此状態ヲ今日ノ儘ニ放棄シ置クトキハ遂ニ両国ノ国交ニ其影響ヲ及ホスノ虞アルニ至リ由来清国人ハ其以動性常軌ヲ以テ律スヘカラサルモノアルヲ以テ地方官憲衝突ノ結果如何ナル奇変ヲ生シ累ヲ大局ニ及ホスコトアル

ヤモ亦之ヲ保スヘカラス帝國ニシテ
清國トノ交情ヲ敦フシ併セテ滿
洲ニ於ケル我経営ヲ進捗セムト欲
セハ此ノ如ク正当ノ根據落弱ニシテ
而モ両國間ノ交情ニ危険ヲ及ホス
カ如キ問題ハ成ルヘク速ニ之ヲ解決シ
テ萬一ノ誤解ヲ豫防スルニ努ムル
ヲ必要トス依テ此際清國政府ト交
渉ヲ開キ左ノ條件ニ依リ両國ノ
境界ヲ確定シ併セテ我帝國ニシテ滿

目的タル韓民保護ノ途ヲ確実ナ
ラシメンカ為ニ本件ヲ安結スルヲ適當
トス

一、我ニ於テ豆滿江カ清韓両國ノ
国境タルコトヲ確認シ同江上流
地方ノ境界ニ付テハ日清両
國ノ共同調査ノ委員ヲシテ之
ヲ調査決定セシムルコト

二、清國ヲシテ間島ニ於ケル日韓
人ノ雜居ヲ公認セシムルコト

REEL No. 1-0002
0070
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、局子街其他枢要ノ地ニ帝国領事館又ハ分館ヲ設置シ條約ニ依ル領事官ノ權利ヲ行ハシムルコト

四、該地方ニ於テ日鮮人ノ既ニ獲得セル財産及着手セル事業ハ清国ヲシテ之ヲ承認セシムルコト

吉長鐵道ヲ會寧ニ延長スルノ件

本件ニ關シテ之ヲ清国ニ要求スルモ到底其目的ヲ達スルノ見込ナシト認ムルヲ以テ該件ニ付キハ追テ適當ノ時機ニ於テ交渉ヲ開クコトトシ本件ニ關シテハ右ノ條件ヲ提出セサルヲ得策トス

法庫門鐵道

撫順炭礦ノ日清合資ニ掲ケタル南滿洲鐵道並ニ線ニ該當スルハ論ヲ俟タサル所

ナリ而シテ該條項議定ノ際帝國
全權委員カ清國委員ヲシテ該
條項ヲ約セシメタルハ恰モ同鐵道
ノ敷設ヲ顧慮シタルカ為ニ外ナラ
ス当時帝國全權ノ委員ハ同鐵
道敷設ノ為南滿洲鐵道ノ被ルヘ
キ影響如何ヲ知悉セサリシト雖
萬一之カ為害ヲ帝滿洲鐵道
ニ及ホスコトアルヘキヤヲ慮リ特ニ
該條項ヲ設ケタルモノナリ之ヲ以テ

清國ニ於テ我ニ承諾ヲ強スシテ恣
ニ法庫門鐵道ノ敷設ヲナス日清
會議録ノ正文及精神ニ違
背セル不法ノ行為タルハ勿論ナ
サル所ナリトス然レトモ今ヤ本件
ニ付清國ニ対スル問題タルト同
時ニ一面英國ニ対スル問題トナレリ
但シ本件ハ帝ニ清國ニ対スル權
利問題トシテ考慮スルニ止マラス
英國ニ対スル政畧問題トシテモ亦

REEL No. 1-0002
0072
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

之ヲ考究セサルヘカラス殊ニ今後
帝國内外ノ経営ヲ遂ケントスル
ニ当リ外資ヲ得ルノ必要ハ益ニ急
トナリ而カモ右供給ヲ得ルニ付テハ
英國ヲ以テ其首位ニ置カサルヘカラ
サルノ事実モ亦之ヲ看過スヘカラ
サル所ナリトス尤モ法庫門鐵道
ニシテ南満鐵道ニ重大ナル損害
ヲ加ヘ其死命ヲ制スヘキモノナルニ
於テハ是等政略上ノ見地ハ全然
之ヲ抛棄シ飽迄権利問題トシ
テ其没収ヲ拒マサルヘカラスト雖若
シ南満洲鐵道ノ蒙ルヘキ損害ニ
シテ著大ナラス又其損害ニシテ他ノ
方法ニ依リ之ヲ補償スルノ途アルニ
於テハ暫ク我権利ノ主張ヲ緩ニ
シ以テ無國ノ同情ヲ得ルニ勉ムルモ
亦一策ナリトス今法庫門鐵道
敷設ノ影響ヲ考フルニ若シ該鐵
道ニシテ法庫門ニ止マリ之ヲ同地

以北又ハ以東ニ延長セサルコト明カナルトキハ南満洲鐵道ノ蒙ルヘキ影響ハ非常ニ重大ナルモノト認ムルコトヲ得ス殊ニ同鐵道敷設ノ為南満洲鐵道ノ奪ハルヘキ貨物ハハ鄭家屯方面ヨリ来ルヘキモノナレトセサルヲ以テ為シ南満洲鐵道ノ一驛ヨリ鄭家屯ニ枝線ヲ敷設シ此等ノ貨物ヲ同鐵道ニ引キ着クルトキハ優ニ右損害ノ補償ヲナスヲ得ヘキヲ信ス依テ帝國政府ハ此際清國政府ニ対シ其背約ノ罪ヲ責メ今後此ノ如キ非リヲ再ヒセサラシムルノ保證ヲ求メ併セテ南満洲鐵道ノ被ルヘキ損害ヲ補償セシムルノ方針ヲ取リ左ノ條件ヲ以テ法庫門鐵道ノ敷設ヲ許スコトヲ得策ト認ム

一、清國ヲシテ新民屯法庫門鐵道ノ敷設ノ義諾ヲ我ニ求メ

REEL No. 1-0002
0074
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シムルコト

二、帝國政府ノ兼諾ヲ經スシテ

新民屯法庫門鐵道ヲ更ニ法

庫門以北又ハ以東ニ延長セサル

ヘキ旨ヲ明約セシムルコト

三、南滿洲鐵道ノ蒙ルヘキ損

害ノ代償トシテ吉長鐵道ト

同一ノ條件ヲ以テ南滿洲鐵

道ノ一驛（例ハハ四平街）ヨリ

鄭家屯ニ至ル枝線ヲ敷設

セシムルコト

大石橋營口間鐵道ノ撤去

大石橋營口間鐵道ハ當初露國

カ材料運搬用ノ名義ヲ以テ

敷設權ヲ得タルモノニシテ條約ニ依

リ定メラレタル撤去期限ハ既ニ到達

セルモノナリト雖滿洲南部ニ於テ

南滿洲鐵道幹線ノ存在スル限

リハ右幹線ヲ海口ニ連絡スル

必要アルハ自明ノ理トシテヘリ而シテ

REEL No. 1-0002

0075

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

右海口ノ營口ヲ措キテ他ニ存スルコトナキモ亦明瞭ノ次第ナルヲ以テ
今更之ヲ撤去スルヤ如キハ固ヨリ
実行スヘカラサル所ナリトス殊ニ
清國ハ滿洲還付條約第四條
ニ拠テ該日營口ニ橋梁ヲ架設
スルノ計畫ヲナストキハ豫メ露
清兩國間ニ協議ヲナスヘキ旨ヲ定
メ以テ營口大石橋鐵道ノ將来永
ク存續スルヲ豫期セルコトヲ示セリ是

ヲ以テ帝國政府ハ以上ノ事実ニ依
リ營口線撤去ノ計畫実行スヘ
カラサルコトヲ清國政府ニ説示シ
同政府ヲシテ右枝線ノ存續ヲ果
徳セシムルヲ必要ナリト認ム

京奉鐵道ノ延長

清國政府ハ南滿洲鐵道ノ延長
ヲ提議シ京奉鐵道ヲ奉天城
小西辺門迄延長セムコトヲ希望シ
居レル處現在奉天ニ於ケル京奉

REEL No. 1-0002
0076
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

鐵道停車場ハ奉天城ヲ距ル約二哩ノ地點ニ依リ旅客貨物ノ運輸上不便ナシトセサルヲ以テ清國ニ於テ右ノ延長ヲ希望スルハ無理ナラサル次第ト云フヘク而シテ我ニ於テモ亦特ニ之ヲ許スヘカラサルノ事由ナキモノナリ依テ本件ハ現在奉天停車場ト小西辺門トノ間ニ奉天及南滿洲西幾道ノ共同線ヲ設シ小西辺門附近ニ共同停車場ヲ設ケ奉天城道ヲシテ奉天城ニ近接スル利益ヲ享有セシムルト同時ニ南滿洲鐵道モ亦均シク其利益ヲ享クルノ方法ヲ取ルヲ適當ナリト認ム

撫順及煙墓炭坑

曩ニ日露講和ノ際帝國政府ハ南滿洲ニ於テ鐵道、礦山及森林ノ三大利益ヲ收ムルヲ目的トセリ而シテ其所謂礦山ノ利益ナルモノハ実ニ

REEL No. 1-0002
0077
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

撫順及煙墓ノ炭坑ヲ以テ主要ナル
モノトセリ之ヲ以テ帝國政府ハ
一ツマスシ條約ニ於テ露國ヲシテ帝
ニ鐵道附屬ノ炭坑ニ止マラス鐵
道ノ利益ノ為ニ経營セル炭坑モ
亦之ヲ讓與スヘキコトヲ明約セシ
メ尋テ北京條約ニ於テモ亦清國
ヲシテ明文ヲ以テ此讓与ヲ承認
セシメタリ而シテ撫順煙墓炭坑
カ少クトモ鐵道ノ利益ノ為ニ経
營セラレタルノ事実ハ之ヲ否認スル
能ハサルヲ以テ同炭坑ニ対スル我權
利ハ露國ニ対スルト同時ニ清國ニ
対シテモ亦確定動カスヘカラサルモ
ノナリトス然レトモ同炭坑ハ清國版
圖内ニ在ルモノナルヲ以テ我ニ於テ特
ニ清國ノ主權ヲ認メ炭坑ノ利益
ヲ清國ニ分與スルノ方法ヲ取ルトキハ
清國官民ノ好感ヲ買ヒ今後ノ経
營上諸般ノ便利ヲ收ムルヲ得ヘ

REEL No. 1-0002
0078
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

タ殊ニ東清鐵道續約ニ於テ露國ハ清國ニ対シ一定ノ納金ヲ支ヲ約セル次第ナルヲ以テ我ニ於テモ亦隣清國ニ対シ一定ノ利益ヲ与スヘキヲ約シ我経営上ノ便宜ヲ計ルト同時ニ清國ヲシテ間接ニ我権利ヲ確認セシムルコトヲ必要ナリト認ム

安奉線其他ノ鐵道沿線鑛山

安奉鐵道沿線鑛山ニ関シテハ曩ニ其採掘ヲ日清人合同ヲ業トナスノ案ヲ立テ主唱天総領事ヲシテ督接ニ交渉セシメ両者ノ間ニ一成案ヲ見ルニ至リタル後清國ニ於テ南満鐵道解線沿道ノ鑛山モ亦之ヲ右協商中ニ加ヘシコトヲ主張セル為右議定案ノ調印ヲ見スシテ今日ニ至リ然ルニ奉天省内鐵道附属鑛山ニ関シテハ既ニ本年ヲ経過セス公平詳細ノ章程

ヲ取極ムヘキコト、ナリ居レルノミナラス
撫順煙墓西礦坑ノ問題ニシテ前項
ノ如キ解決ヲ見ルニ至ルトキハ前記
議定案ニ基キ安奉及南滿鉄
線ニ適スル一般ノ鐵山章程ヲ取極
ムルモ何等ノ差支ナシト認ムルヲ以テ
此際清國政府ト交渉シ大体ニ於
テ本天ニ於ケル成案ヲ基礎トシ
議定ヲ遂ケ以テ本件ヲ結了ス
ルコトヲ得策ナリト認ム

一三

大正四年十一月二日付伊集院公使宛訓令
機密第七七號附屬書一

REEL No. 1-0002
0080
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

秘

安奉線及南滿鉄道沿線
鑛山ニ関スル議定

第一條　日本總領事ハ現在ノ安東奉天間輕便鉄道ヲ將来改良シテ廣軌ニ修築スル際現在ノ線路ハ多少変更スヘキ見込ナルモ別ニ他線ヲ設ケサルヘキコトヲ特ニ聲明ス

第二條　現在該線路一帶ニ於テ日本人ノ佔跡採セル各鑛山ハ日本總領事ヨリ總テ之ヲ詮議シ第三條ニ照ラシテ批示辯理スヘシ

第三條　該線路附近ニ於ケル石炭、鉄、鋼、鉛等ノ鑛物ハ雙方ヨリ委員ヲ派遣シ調査シタル後合辯スヘキモノト定メラルルモノハ領事地域ヲ指定シ豫メ爲ツ東三省總督及奉天巡撫ニ稟請シテ決定批准ヲ受クヘシ領事會辯方法ハ臨城石炭坑契約ノ辯法ニ按照スヘシ

第四條　若シ將来奉天省内ニ於テ他ノ商人ニ炭坑開掘ヲ許可シタルトキ直隷臨城ノ契約辯法ノ利益ニ比シ優越ナル点ハ今後本線ニ於テ批准ヲ受ケ合辯ナル石炭坑モ亦稟請ノ上之

REEL No. 1-0002
0081
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ據照シテ辯理スルヲ准許セラルヘシ鉄、錫、鉛ニ
種ノ鑛業ヲ合辯スル場合ニ其納稅率ハ今後
農工商部ヨリ送置スル所ノ章程ニ準照シテ
辯理ス

第五條　若シ本邦内ニ於テ他ノ商人ニ鉄、錫、鉛
等ノ鑛物試掘ヲ許シタルトキ農工商部ノ章
程ニ準照シテ銳金鑛金等公金ヲ納付セン
ルル以外ニ若シ他ノ利益ヲ與ヘルトキハ將來日清
両國商人ノ設立ニ係ル會社ニシテ本條略ニ於テ批
准ヲ受ケ上記鑛業ヲ合辯スル者モ亦稟請
ノ上更ニ據照シテ辯理スルヲ准許セラルヘシ

REEL No. 1-0002
0082
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

秘

撫順炭坑ノ件

REEL No. 1-0002

0083

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

撫順炭坑ノ件

第一、沿革

(イ)撫順炭坑ノ地域　撫順炭坑ノ地域ハ渾河ヲ以テ南北ニ分ち其河南ノ部ハ更ニ渾河ノ支流タル楊柏堡河ヲ以テ東西ニ分ル其區域大要左ノ如し

河南
- (一)河西ノ李三石寨、大瓢屯、小瓢屯、古城子、千金寨
- (二)河東ノ楊柏堡、老帝台、邁達屋

河北ノ白龍山、土口子、石門寨、駅馬站、營盤、新屯嶺

右ニ對スル開掘權利者左ノ如し

河南
- (一)河西ノ李三寨ヲ除ク外ハ華興利公司ニ屬シタリ
- (二)河東ノ凡テ撫順煤礦公司ニ屬シタリ

河北ノ何レモ溥裕公司ニ屬シタリ

元來該煤田附近ハ清朝發祥ノ地ニシテ西ニ福陵アリ東ニ永陵アリ祖宗ノ陵域ニ屬スルヲ以テ古來嚴ニ之ヲ封禁シテ開墾ヲ許サル、マトナカリシモノ、如し、

(ロ)河南煤田ノ開掘着手、光緒二十六年義和團ノ變亂ニ乘シ露國兵ヲ滿洲ニ送リ盛ニ侵畧ヲ企テ鐵道ヲ敷設スルニ至リ其沿線附近ニ於テ石炭ノ必要ヲ生ズルヤ從來清人ノ採掘ニ着手セルモノ及其開掘ノ煤田ヲ各所ニ探求シ砂河子、煙台、瓦房店等ニ着手ヲ試ミ以テ撫順ノ開掘ヲ為サントスルモ古來封禁ノ事情アルニ依リ其着手稍困難アリシカ石方之ニ對スル手段ヲ盡シ遂ニ王承堯、翁壽ノ名義ヲ以テ各銀壹萬兩ヲ國家ニ報效シ河南ノ開掘權ヲ得テ其封禁ヲ打開シ楊柏堡河東ハ翁壽ノ名下ニ始メテ着手ヲ見ルニ至リシトスル其河西ハ王承堯ノ名下ニ始メテ着手ヲ見ルニ至リシトスル是レ光緒二十七年九月ナリ、

REEL No. 1-0002
0084
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(ハ)楊柏堡河西ニ於ケル創業、總辯王承堯ノ名下ニ河西龍帙岡ニ一坑ヲ開キタルニ聞モナク出炭ヲ見ルニ至リ非常ノ好望ヲ以テ採掘セラレタリト云フ

(ニ)楊柏堡河東ニ於ケル創業、楊柏堡老帥台等ハ河東ノ地ニシテ總テ前壽ノ採掘權ニ帰シタルモノナリシカ開坑ノ當初位置ノ撰定不適當ナリシ為メ出炭ヲ見サル事情等アリテ餘リ好望ニモ非ス後テ出資者少ク又創業ニ徒費多カリシ為メ遂ニ紀鳳台ノ手ニ其採掘權利ヲ移轉スルノ機會ニ至リ(露國民用商人フルビノフ氏之ニ關係セリト傳フ)遂ニ之ヲ紀ニ賣却シタリ其賣却價格ハ七萬兩ナリシトニフ、

(ホ)王承堯(楊柏堡河西ノ創業者ト紀鳳台(楊柏堡河東ノ創業繼承者)トノ間ニ於ケル訴訟事件、河西ノ創業ハ出炭速カニシテ好望ナリシニ反シ河東ハ開坑ノ位置不適當ノ為メ出炭ヲ見ル能ハス失費多クシテ前途ノ望ナカリシ等ノ事情ノ為メ紀鳳台ノ猾智為ニ採掘權地ノ境界紛爭ヲ起スニ至リ計畧ヲ案出シ遂ニ大訴訟ヲ提起シタリ、此紛爭ハ光緒二十七年ヨリ翌年三月ニ至リタル後和解行ハレ楊柏堡河ヲ以テ依然界トナス事ニ決定シタルモノヽ如シ

(ヘ)華興利公司ノ設置、河西ノ創業者王承堯ハ前項ノ訴訟其他事業上ノ失費ノ為メ當初ノ資金欠乏シ漸ク又如意トナリタリ茲ニ於テカ露清銀行ハ此機ヲ利用シテ出資ヲ為シ(一種ノ株式會社組織ニシテ露清銀行ノ出資ハ其實ヲ為シ約七千五百兩ヲ三次ニ分テ拂込ミタルヿナル由)此ニ始メテ其實ニ於テハ全然露清合同ノ經營事業トナリ開辦當時ヨリ使用シ來レル華興利煤礦公司ナル名ノ下ニ其河西ノ事業ヲ継續シタリ、是今ノ所謂千金寨炭坑ナリ

REEL No. 1-0002
0085
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(ト)撫順煤礦公司ノ創設、前記訴訟ノ経過ハ如斯ト雖モ裏面ニ於ケル紀鳳台ノ計畫ハ大ニ其目的ヲ達セシト同時ニ續テ河東撫堀ノ結果大ニ有望ナルニ至リタルヲ以テ紀鳳台ハ其後第紀、茂、林ナルモノヲ楊柏堡ニ派遣シ之ト同時ニ露人ノ役員モ来リテ河東ノ経營ニ着手シ順次事業ヲ進メタリ是其名ハ紀鳳台ノ採掘權ニ借リシト雖モ其實ハ純然タル露國ノ事業ナリシコトハ民人一般ノ認ムル所ナリトス

(チ)河北煤田ノ開掘、河北煤田ニ関シテハ夫綿二十七年十一月候選知縣丁汝儁、候補驍騎校魏豊北等ノ清國人五人八千兩ヲ貸与トシ二千兩ヲ礦税ノ先拂及報効銀トナシ決シテ外人ヲシテ其事業ニ関與セシメサルヲ誓ヒ地域ヲ劃シテ開掘願書ヲ提出シタルニ翌二十八年十二月一日許可ヲ與ヘラレ同十月ヨリ採掘ニ着手セリ然ルニ其資力不足ナリシ為メ同公司ハ軍ニ石門寨ノミヲ開掘シ向龍山、土口子ハ六合公司、太安公司(共ニ純然タル清國人ノ商社タリ)ニ貸與シテ開採セシメ採炭百斤ニ付二十斤ヲ收メシムルコトニ定ムルモ其貸與開掘ニハ期限ヲ定メス両當事者ニ於テ任意徒債度約シ得ル旨協定セリ然レトモ此三公司共日露戰役ノ為メ夫備三十一年二月以来其作業ヲ停止シタリ溥祐公司ハ現ニ奉天大東門外燈炸市ニ在リ目下殆ント営業ヲ為シ居ラサル都ナリ、

第二、炭坑還付ノ要求

(一)河西炭坑

明治三十九年四月清國外務部ヨリ在清内田公使ニ對シ清南王承堯ノ経營セル華興利煤礦公司ハ千山台炭山(所謂河西炭坑)ノ採掘ニ従事スルモノニテ彼ノ露人ノ経理セシ撫順公司トハ何等ノ関係ナキモノニシテ光緒三十一年二月其

REEL No. 1-0002
0086
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

旨日本軍憲「聲明シ置キタルニ何等回答ナキノミナラス同三月七日ヨリ該石司ノ作業ハ禁止セラレ日本人小山田淑助ナル者之ヲ占據シテ盛ニ作業シ居ルニ就テハ日清協約第四条ニ於テ「現ニ占有セル清國石料ノ名財産ハ撤兵ノ時ニ於テ悉ク清國官民ニ引渡スヘシ」トノ規定ニ基キ速ニ右炭坑ヲ該日本人ヨリ華興利石司ニ交還スル樣取計ハシ度旨石司ノ願出ニ基キ照會アリ茲ニ於テ帝國政府ハ八月末ヲ以テ在清林石使ニ訓令スルニ該炭坑ハ明治三十七年以来全ク露國人ノ経営ニ属シ專ラ東清鉄道ノ利便ノ為メ採掘セラレ居タルモノニシテ後テハ露議和条約第六条ニ所謂鉄道ノ利益ノ為メニ経営セラルヽ炭坑トシテ當然帝國政府ノ有ニ帰シタルモノナル旨ヲ清國官憲ニ照覆スヘキヲ以テシ且ツ該炭坑ニ関スル清國人ノ權利ハ結局全然之ヲ無視スルヿ能ハサルヤモ難計ニ付其節ニハ別ニ方法ヲ

4

設ケ其要求ヲ満足セシムル必要モアルヘケレ共右ハ清國政府トノ交渉ノ成行ニ依リ更ニ詮議ヲ遂クルヿトシ清國政府ニ對シテハ兎ニ角一應前記ノ趣旨ニ依リ回答スヘキ樣附言セリ

越テ同年十月ニ至リ奉天將軍モ亦タ文ヲ以テ千山台（撫順）炭坑ノ採掘停止ヲ在奉天萩原總領事ニ申込ミ来リ曰ク千山台炭坑ハ本ト官有ナリシモ清國王承堯等ノ計劃ニ依リ華興利煤礦石司ノ名義ノ下ニ往年將軍廠ノ許可ヲ得テ業務ヲ開始シタルモノナルカ右石司ニ對シテハ露清銀行ノ持株有リト雖モ事實露清共同事業ニハ非ス殊ニ該持株ヲ組入ルヽ件ハ未タ北京外務部ノ允准ヲ経サルモノナリ後テ清露間ノ契約ニ依リ両國ノ合辦ニ属スル他ノ礦山ト同視スヘカラス然ルニ右炭坑ハ目下日本人ノ占有採掘ニ帰シ居ルニ付滿洲ニ關スル日清協約ニ依リ還付ヲ要クヘキ筈ナリ殊ニ往年王承

REEL No. 1-0002
0087
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

竟等開作ノ時ニ於テハ規定ニ依リ納稅ノ義務ヲ盡シタルニ日本人ノ占據以來一年有半ニ亘リ毫モ納稅シタルフナシ本件ハ現ニ北京ニ於テ交渉中ナルモ未タ敢テ一時ノ便法トシテ日本總領事ヨリ該處占據ノ日本軍隊及人民ヲシテ其行動ヲ停止セシムベキ旨しゝ

依テ帝國政府ハ前記林公使ヘノ訓令ト同一趣旨ヲ以テ奉天將軍ヘ照覆セシメ該坑ノ採掘停止ノ儀ハ到府清國官憲ノ希望ニ應スルコト能ハサル旨回答セシメタリ

尋テ同年十二月中旬又ヽ趙奉天將軍ヨリ萩原總領事ニ對シ千山台炭坑ハ王承堯ノ權利ニ帰シ居リタル確的ノ証據アリ且ツ右炭坑ハ南滿洲鉄道ノ両側三十清里外ニ在リテ建清鉄道會社カ条約上當然採掘シ得ヘキ区域外ニ在ル旨ヲ照會シ来リ尚ホ北京外務部ヨリモ林公使ニ對シ同様ノ交渉ヲ為シ来リ然レトモ右三十里主義ナルモノハ曾テ露清間ノ合意ニ依リテ確認セラレタル形跡ナク萩原總領事カ奉天將軍廳ニ於キ取調ヘタル處ニ依ルモ黑龍古林両省ニ於テハ露清間ニ調印シタル協定アル趣ナルモ奉天省ニ關シテハ何等ノ協定成立シ居ラサルヿ確實ナルカ如シ旁以テ帝國政府依然當初ノ主張通リ露國カ從前東清鉄道ノ利益ノ為メ採掘セル炭坑ハ其初メ同鉄道附屬ノモノタリシト否トニ拘ラス「ポーツマス」条約及滿洲条約ニ依リ正當ニ我ニ帰屬シタルモノニシテ彼ノ三十里主義ナルモノハ我ニ於テ承認スル處ニ非サル趣ヲ述ヘ清國政府ノ要求ヲ峻拒スヘキ旨聖四十年三月初旬ヲ以テ林公使及萩原總領事ヘ電訓シタリ

然ルニ五月中旬ニ至リ在本邦楊清國公使ハ林外務大臣ヲ該問シ本國政府ノ訓令ナリトシテ撫順炭坑ハ前年王承

尭ニ特許ヲ與ヘ同人ハ已ニ約十箇所ノ炭坑ヲモ投シ採掘ニ從事シ居リタル儀ニテ目炭坑ヲ滿鉄ニ與フルハ清國政府ノ承認スル能ハサル處ナル旨ヲ述ヘタルニ依リ外務大臣ハ之ニ對シ撫順炭坑ハ条約ニ依リ當然我ニ歸屬シタルモノナルモ王ニシテ事實経費ヲ投シ居タル儀ナレハ其情狀ヲ酌ミ滿鉄ヨリ救恤的ニ多少ノ金額ヲ給與スルヿ絶對ニ出来難キニモ非サルヘシト答ヘタルカ當時王承尭ハ奉天ニ居リタルヲ以テ本人ヨリ直接後藤滿鉄總裁ニ相談シテ可然旨ヲ清國ヲ使ニ立テ右ノ趣後藤總裁ヘ通告セリ、而シテ王ハ七月ニ至リ奉天ニ於テ一度後藤總裁ヲ訪問シタルモ總裁事故アリシ為メ佐藤方佐代リテ面會セシカ其後總裁ニ於テモ王ト會見センコトヲ望ミ居タルモ王旅行中ニテ遂ニ其意ヲ果サヽリキ、

因ニ云フ本年三月頃在露帝國大使館附田野通訳官ノ聞知セシ所ニ據レハ王承尭ノ採掘權ハ露清銀行カ已ニ全然之ヲ同人ヨリ譲リ受ケ居リ同銀行ハ平和克復後右炭坑カ日本政府ニ譲リ渡サレタルヲ知リ其賠償方ニ付キ露國外務省ニ通リタル處外務省ハ大蔵省ト相談ノ上賠償トシテ九十九箇餘留ノ金額ヲ同銀行ニ拂込ムヿニ決シ最早ヤ此拂込ヲ了シタル旨大蔵大臣ヨリ外務大臣ヘ通知シタル文書外務省ニ存在スル趣ナリ

越テ本年二月初旬ニ到リ露國外務省ハ駐露本野大使ニ公文ヲ致シテ曰ク撫順煤田華興利石司株券ノ一部ハ露清銀行ノ所有ニ係リ然ルニ後藤總裁カ露清銀行理事「プチロフ」ニ詰リタル所ニ依レハ該炭坑ハ日本政府ノ財産トシテ滿鉄ニ移轉セラレタルモノヽ由ナルカ頃日ノ情報ニ徴スルニ華興利石司ノ代表者王承尭ハ該炭坑ノ下戻若クハ賠償ヲ目

清両國政府ニ求メテアルカ如シ然テハ日本政府ニ於テ本件ヲ處分セラルヽ際ニハ又露清銀行ノ利害ヲ考量セラレ度ク且該石炭ノ要求ニ應セラルヽニ先チ在東京露國大使館ノ意見ヲ質サレンコヲ希望ス、該炭坑ヲ日本政府ノ所有ナリト決セラレタル理論上ノ問題ハ暫ク措キ露國政府ハ日本政府カ露清銀行ニ與ヘラルヘキ回答ヲ聞カン事ヲ欲スルヿト之ニ對シ帝國政府ハ同月十一日本野大使ヲシテ露國政府ニ答ヘシメテ曰ク該炭坑ニ関シテハ清國政府ヨリ屬次還付ノ請求ヲ提出シ來リタルヿアリシモ元来同炭坑ハ其當初何人ニ許可セラレタルモノナルヤニ拘ラス其後ニ至リ事實上露國ノ掌握ニ帰シ東清鉄道ノ利益ヲ考メ任當セラレタルハ疑フヘカラサル事實ナルヲ以テ帝國政府ハ日露媾和条約及ヒ滿洲ニ関スル日清協約ニ據リ完全ニ帝國政府ノ有ニ帰シタルモノト認メ之ヲ南滿鉄道ニ對スル出資ノ一部

ト為シタルモノナリ、右ノ趣ハ已ニ清國政府ニモ之ヲ通知シ其還付ニ関スル請求ヲ断然之ヲ拒絶シタル義ニシテ帝國政府ハ露清銀行又ハ主承竟等ニ對シ何等損害ノ賠償等ヲ為スヘキ筋合ニ非サルハ勿論ナリト認ムルモノナリ云々ト當時在本邦露國ノ使ニ於テモ亦我ト同シク帝國政府ニ於テ何等賠償ノ義務ナキモノナルコトヲ認メ其趣本國政府ヘ電報シタルモノヽ如シ、

（二）河東炭坑

撫順炭坑中楊柏堡河ノ東部ニ存スル礦區（所謂河東）ハ前述ノ如ク撫順煤礦ニ係ルモノナルカ明治三十九年九月中右炭坑權利者タル露國人陸軍大佐「ルビノフ」ヨリ代理人「メイナルド、ランジェル」ヲ以テ該炭坑ハ全然私的財産ナルカ故ニ速ニ之ヲ還付セラレ度且該礦附近ニ延長セラレタル鉄道

REEL No. 1-0002
0090
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

支線ハ同會社ノ私的施設ニ屬スルモノナルカ故ニ同ク之カ下渡ヲ受度旨我奴國人私有財産數件整理委員長ニ對シ申請シ來レリ、依テ該委員會ニ於テハ種々審議ヲ遂ケタル末同十一月ヲ以テ右申請ノ目的タル炭坑ハ東清鉄道ノ利益ノ爲メニ採掘セラレタルハ事實ニシテ又同礦ニ近長セラレタル鉄路ハ東清鉄道ノ枝線タルハ亦一点ノ疑ナシ故ニ該礦山及鉄路ハ「ポーツマス」条約第六条第一項並ニ滿洲ニ關スル日清政府ノ合意ヲ以テ日本帝國政府ニ讓與セラレタルモノニシテ此事實タル已ニ確定不動ノモノニ屬スルカ故ニ帝國政府ハ到底下度ノ請求ニ應スル能ハサル旨該申請人ニ通達ニ及ヘリ、

然ルニ處本年三月中旬ニ至リ在露本野ヲ使ヨリ撫順煤礦公司ノ件ニ關シ其株主タル退職陸軍大佐「ルビノフ」及「ハバロフスク」市「等商紀鳳台」(元清國人ニシテ露國ニ帰化セシ者)ノ両人ヨリ該炭坑處分方ニ付一切ノ權利ヲ委任セラレタルヨシ申出ヲ請ケ、デタ、アクチユエル、ヲグロウモフ」ナル者我田野通訳官ニ對シ大要左ノ如キ該話ヲナシタル趣報告ニ接セリ、

撫順煤礦公司ノ採掘ニ係ル炭坑ハ其初メ露清両國人ニヨリテ組織セラレタル株式會社撫順煤礦公司ナルモノカ光緒二十七年中清國政府ヨリ借款ヲ得テ採掘ニ居タルモノニシテ後右株券カ總テ「ルビノフ」及紀鳳台両名ノ買收スル所トナリ而シテ此両名ハ右炭坑ヲ露暦千九百三年三月露國極東森林會社ノ手先タリシ陸軍名誉謀中佐「マドリイドフ」ニ讓リ渡シ同中佐ハ更ニ同年七月中之ヲ前記森林會社ニ讓リ渡シタルモノナルカ同會社ハ日露戦争後即チ露暦一九〇六年七月之ヲ米國人「スミス」ナル者ニ賣却

REEL No. 1-0002
0091
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シタルモノナリ然ルニ右「スミス」ノ議決ハ其實所有者名義ノ変更タルニ止リ該森林會社々長「ベラシヨフ」カ未人ノ手ヲ経テ權利ヲ回收スル方便利ナリト思惟シタル結果行ヒタル僞裝法律行為タルナリ、思フニ該森林會社ト「スミス」トノ間ニハ又スト何等カ別個ノ秘密契約存在スルナルベシ、

然ルニ「ルビノフ」及紀鳳台カ前記「マドリイドフ」ニ該炭坑ヲ譲渡シタル當時ノ契約ニ依レハ其第二条ニ於テ(一)該炭坑カ今後何人ノ手ニ渡ルトモ「ルビノフ」及紀鳳台ハ右炭坑借款ヨリ生スル純益ノ二割ヲ得ルノ權利ヲ保留シアリ且(二)此借款ヲ譲リ受ケタルモノカ三年間事業ヲ中止シタル場合ニ於テハ此借款ノ權利ハ何等ノ賠償ナクシテ當然前記両名ノ手裡ニ帰スヘキコトヲ規定セリ、然ル處日露戰役並ニ四平街買書有効中ノ如キヲ不可抗力ノ時期トシテ之ヲ除クモ本年八月頃ニハ已ニ三年間ノ期間ニ満タントスルニ拘ラス森林會社及同會社ヨリノ譲受人ハ毫モ事業ニ着手セサルノミナラス前記両名ニハ何等ノ通知ナクシテ同會社ハ該炭坑ヲ未人「スミス」ニ譲リ渡シタルモノナルカ故ニ一方前記三年間ノ期間満了ヲ待チ他方紀鳳台カ目下露國政府ヲ経テ我政府ヘ對スル賠償要求事件ノ落着ヲ待テ該森林會社ニ對シ訴訟ヲ提起セントスル計畫アリ而シテ「ルビノフ」紀鳳台ノ両名ハ該炭坑ニ関スル權利カ何レニ帰スルニ拘ラス右炭坑ハ決シテ露國政府カ日本政府ニ譲リ得ルモノニ非ス又日本政府カ隨意ニ處理シ得ヘキモノニ非スシテ全ク「ポーツマス」条約規定以外ノ炭坑ナリトノ見解ヨリ日本政府ニ對スル立場方ヲ露暦昨年九月ヲ以テ露國外務省ヘ願出居リ云々、

尚前掲「グロモフ」カ以上ノ事情ヲ田野通訳官ニ物語ルニ至リシハ

REEL No. 1-0002
0092
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

萬一「スミス」等カノ手段ヲ以テ仮令一日タリトモ炭坑採掘ニ
従事スルコトアランニハ或ハ前顕ノ有権期間更ニ三年間延長セ
ラレンヲ恐レシニ出テタルモノニシテ之ヲ防ク為ニハ日本人ニ依頼スル外
ナシト思考シタルニ依ルモノナリ、之ニ對シ同通訳官ハ抑談炭坑ハ平
和条約ニ基キ帝國政府カ露國政府ヨリ譲受ケタルモノニ付日
本政府ノ許可ナクシテハ何人ハ雖モ其採掘ニ従事スルヲ能ハス
又日本政府ハ未人「スミス」ニ之ヲ許可スルヲモナカル(キ旨ヲ答ヘ
置キタル趣ナリ

(三) 税率ニ関スル問題

抑モ北京會議録ニ依レハ奉天省内鉄道附属鑛山ハ已開未
開ニ拘ラス本年詳細ノ章程ヲ取極ム(キコトヽナリ居リ又東
清鉄道續約第四条ニ依ルモ鉄道會社ハ其採掘石炭什数
ニ應シ納金ヲナス(ク又右納金額ハ地方ノ税額ニ超過スル

10

ナキヲトナリ居ルヲ以テ撫順炭坑ニ關シテモ亦右取極ノ必要
アルノミナラス過般北京ニ於テ唐紹儀ヨリ我在清公使ニ對シ
右ニ関シ開談ノ次第アリタル處在露本野大使ノ報告ニ依レハ
露國ニ於テ撫順炭坑回復ノ為メ隠密ニ種々ノ計畫ヲナスモ
ノアル趣ナルヲ以テ帝國政府ハ此際撫順炭坑(烟台モ併セテ)
ニ関スル納税額ヲ定メ開接ニ清國政府ニ對シ右炭坑ニ関スル
我權利ヲ確定シ他日露國側ヨリ何等ノ問題ヲ提起シ来ルモ
清國側ヨリ故障ノ来ル(キ迄ハ之ヲ杜絶シ置ク方得策ナリ
ト認メタリ然ル處前記ノ如ク我納付ス(キ金額ハ他人カ同地方ニ
於テ採掘スル石炭ニ對シ納付スル税額以内ナル(キヲトナリ居ル
ヲ以テ帝國政府ハ本年四月下旬ヲ以テ在奉天加藤總領事
ニ電訓シ同地方ニ於テ納付セル税額ヲ調査セシメタル處清國
税局ハ目下煙台、本溪湖、牛心台等ノ石炭ニ對シ出井税ト

REEL No. 1-0002
0093
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シテ山元賣價百分五ノ稅ヲ課シ居リ又安溪湖炭ノ賣價ハ一噸五六圓ナルヲ納稅ニ關シテハ三圓内外ト見積リ其高低ハ清國稅局吏ノ手心ニ依ル趣ニテ右ノ外礦區稅トシテハ一礦區(四十礦界ニシテ一礦界ハ十或ナリ)ニ對シ執照下附ニ際シ三十ケ年ヲ一期トシテ一百兩ヲ納稅セシメ尚毎年一礦區ニ付五十兩ノ稅ヲ徵スル規定ナル旨留言アリシヲ以テ目下南滿鐵道會社ヲシテ右稅額等ニ關シ更ニ精査ニ從事セシメ居リ尚本年四月下旬在牛莊領事事務代理ヨリ清國海關稅章ニ依レハ湖北安徽廣西及開平炭ノ輸出稅ニ張リ一噸ニ付一圓トシ其他ハ盡ク之ヲ三圓ト規定セルニ就テハ撫順炭ハ開平炭ト其境遇及販路ヲ同フセルニ拘ラス現時之ニ三倍スル輸出稅ヲ課セラレ居リ本邦商人ノ困難不勘ルヲ以テ之ヲ改メテ開平炭同樣一噸一圓ノ稅率ヲ適用スル樣其筋ヘ交渉方在清林公使ヘ上申アリタルヲ以テ五月下旬同公使ハ公文ヲ以テ右ノ趣外務部ヘ照會ニ及ヒタルニ六月下旬ニ至リ同部ハ我交渉ニ照復シテ開平炭等ノ稅額ハ之ヲ以テ他ニ引接シテ例トナスヲ得ス且ツ撫順炭坑ハ清國ニ交還セラルヘキ件ニ就テハ更ニ別業トシテ辯理スヘキ旨回答ニ接シタルカ同公使ニ於テハ該還付問題ニ付テハ最早論スルノ要ナシト為シ此点ニ就テハ何等ノ論及ヲナサス只輸出稅率ニ關シテハ依然當初ノ主張ヲ堅持シテ其交渉ヲ継續シツヽアリシモ最近接到ノ報告ニ據レハ清國政府ハ飽迄撫順炭坑還付論ヲ楯ニ取リ減稅ノ要求ハ斷然之ヲ拒絶シ来レル由ナリ

REEL No. 1-0002
0094
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/